



## 2021年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月8日

上場会社名 BEENOS株式会社  
コード番号 3328 URL <https://www.beenos.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 執行役員社長 (氏名) 直井 聖太

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 松田 久典

TEL 03-5739-3350

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年9月期第1四半期の連結業績(2020年10月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第1四半期	6,275	22.8	345	85.4	311	86.8	122	92.3
2020年9月期第1四半期	8,129	53.1	2,366		2,367		1,594	

(注) 包括利益 2021年9月期第1四半期 85百万円 ( 94.8%) 2020年9月期第1四半期 1,641百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第1四半期	9.71	9.13
2020年9月期第1四半期	133.60	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年9月期第1四半期	21,811	11,176	50.8	870.71
2020年9月期	23,029	11,210	48.3	882.12

(参考) 自己資本 2021年9月期第1四半期 11,085百万円 2020年9月期 11,130百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期		0.00		20.00	20.00
2021年9月期					

### 3. 2021年9月期の連結業績予想(2020年10月1日～2021年9月30日)

2021年9月期の連結業績予想につきましては開示を見合わせており、記載しておりません。詳しくはP4(3)「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年9月期1Q	13,335,995 株	2020年9月期	13,335,995 株
期末自己株式数	2021年9月期1Q	604,076 株	2020年9月期	717,670 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年9月期1Q	12,647,686 株	2020年9月期1Q	11,935,853 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。  
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、テクノロジーの力とこれまでに培ったグローバルコマースの知見をいかし、日本から海外、海外から日本を双方向に結ぶプラットフォームを構築し、人・モノ・体験とグローバル市場を繋ぎ、新しい常識や可能性を提供し続ける「グローバルプラットフォーマー」を目指しております。

今期は、グローバルコマース、バリューサイクル、エンターテインメントの各事業領域においてそれぞれ、「競合を寄せ付けないポジションの確立」「高価格帯商品へのシフトと海外販売の強化」「エンターテインメント業界に特化したSaaS型基幹システムの構築」の実現を目指しております。また、当社といたしましては、新型コロナウイルスの感染拡大とその影響は、長期化するものと想定し、今後も状況を注視しつつ最大限の対策に取り組んでまいります。

当第1四半期連結累計期間においては、Eコマース事業・グローバルコマース部門においては、各国向けにより安価な配送手段を拡充することで価格優位性の構築によるシェアの拡大を図り、バリューサイクル部門においては、買取専門店の店舗展開拡大により国内外に販売する高価格帯商品の買取強化を推し進めました。また、エンターテインメント部門においては、アーティストのグッズのECでの販売に注力し、観客を入れてのイベントの開催に依存しない状態を目指しました。以上の結果、Eコマース事業の売上高および営業利益は好調に推移しました。また、インキュベーション事業においては、営業投資有価証券の売却はありませんでした。新規事業としては、東南アジア最大級のECプラットフォーム「Lazada」や信用金庫の中央金融機関である「信金中央金庫」との業務連携などにより、日本企業・ジャパニーズコンテンツの海外展開を積極的にサポートしました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,275,990千円（前年同期比22.8%減）、営業利益は345,386千円（前年同期比85.4%減）、経常利益は311,951千円（前年同期比86.8%減）親会社株主に帰属する四半期純利益は122,869千円（前年同期比92.3%減）となりました。減少理由は、いずれも前第1四半期中に発生した営業投資有価証券の売却（約28億円）が当第1四半期中においては発生しなかったことがその要因です。

当社が経営指標として重視している流通総額（国内外における商品流通額）につきましては、当第1四半期連結累計期間で152億円（前年同期比36.3%増）となりました。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### ①Eコマース事業

##### i) グローバルコマース部門

「海外転送・代理購入事業（FROM JAPAN）」においては、2019年11月より業務提携を開始した株式会社メルカリが運営するフリマアプリ「メルカリ」の流通額が順調に拡大したことに加え、新型コロナウイルスの世界的な流行による国際物流の遅延や引き受け停止に対応し、各国向けの配送手段の拡充に積極的に努めた結果、北米を中心とした受注増加などにより売上高が好調に推移しました。また、自社サイトに数行のタグを設置するだけで簡単に海外販売を開始できるサービス「Buyee Connect（バイイーコネクト）」が、株式会社ロコンドが運営する「LOCONDO.jp」や「FASHION WALKER」などに導入されました。「Buyee Connect」導入サイトは、PayPal、Alipayなど海外の主要な決済手段への対応や、英語・中国語など多言語でのカスタマーサポートが当社より提供され、海外のお客様が便利に安心して日本の商品を購入できるようになります。

「グローバルショッピング事業（TO JAPAN）」においては、オペレーションの自動化の推進に加え、個別のユーザーに合わせたマーケティングの実施によりアクティブユーザーの増加を図りました。倉庫のある米国では新型コロナウイルスの感染が拡大しておりますが、これまでのところオペレーションに影響はでておりません。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,768,973千円（前年同期比43.7%増）、営業利益は579,290千円（前年同期比104.9%増）となりました。

##### ii) バリューサイクル部門

「ブランド・アパレル買取販売事業」においては、国内での新型コロナウイルスの感染の再拡大に伴うと考えられる、ブランド品の購入需要の減退により売上高が減少したものの、粗利率の改善や、より効率的な広告宣伝費の投下などにより利益率が向上しました。買取面においては、ハイブランドの商品など高価格帯商品の買取を強化するため、第1四半期中に「ブランディア」の買取専門点を東京都内に3店舗出店したことなどにより、平均買取単

価が上昇しました。販売面においては、東南アジア6カ国および台湾に展開しているECモール「Shopee」などの提携サイトを通じた海外販売の強化や、自社で運営する販売サイト「ブランディアオークション」の商品を、ブランディアの各買取店舗および酒類の買取販売事業「JOYLAB」の各店舗において購入前に取り寄せて状態を直接ご確認頂ける「店舗取り寄せサービス」を開始しました。

「酒類の買取販売事業」においては、飲食店からの買取・現金化需要を取り込むために、マーケティングを強化した結果、当第1四半期は過去最高の買取高となりました。また、自社で運営する希少酒の販売サイト「moment」でのキャンペーンを実施するなど販売面にも注力しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,840,016千円（前年同期比9.8%減）、営業利益は51,818千円（前年同期は営業損失27,607千円）となりました。

### iii) エンターテインメント部門

「エンターテインメント事業」においては、新型コロナウイルスの影響による大型イベントの開催自粛の状況が続き、会場でのグッズ販売ができない中においても、オンラインイベントの開催に伴うグッズ販売などに注力した結果、ECを通じた販売が好調に推移しました。また、一部観客を入れてのイベントが再開されたものの、観客数の制限は短期に解消されるものではないと考えております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,653,580千円（前年同期比91.3%増）、営業利益は140,312千円（前年同期は営業損失38,367千円）となりました。

Eコマース事業全体では、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,262,570千円（前年同期比19.4%増）、営業利益は771,422千円（前年同期比255.8%増）となりました。

## ② インキュベーション事業

「投資育成事業」においては、新興国のオンラインマーケットプレイスやオンライン決済企業への投資および、国内のインバウンド消費関連のスタートアップ企業への投資を行っており、国内の投資先であるVpon JAPAN株式会社とは、共同でクロスボーダー分野におけるデジタルソリューションの提供を開始しました。この連携により、台湾や香港など海外からのインバウンド対策と越境EC出店などの海外展開（アウトバウンド）対策の両面におけるデジタルマーケティングを一気通貫で提供できるようになりました。また、Vpon JAPAN株式会社は、当社グループのBEENOS Travel株式会社との取り組みも実施しており、インバウンドの広告や記事を閲覧したユーザーが実際に訪日した際にどのような地域を訪れたのかを検証するサービス「訪日検証メディアプロモーション」の提供を開始しました。以上のように、出資だけではなく、シナジーの創出も進めています。新型コロナウイルスの影響により、インバウンド関連の投資先企業は引き続き厳しい状況が続いているものの、収束後にむけたプロダクトの開発などに注力しています。当第1四半期においては、営業投資有価証券の売却はありませんでしたが、当社の出資先の大部分を占めるマーケットプレイス企業は世界的なデジタルシフトの加速により、新型コロナウイルスの感染拡大前の水準以上まで成長している企業もあり、事業進捗の状況に応じて適時適切なタイミングでの投資回収を進めてまいります。

「新規事業」においては、東南アジア最大級のECプラットフォームである「Lazada」との業務連携により、日本企業のLazadaへの出店サポートサービスの提供を開始しました。商品ページの現地言語への翻訳、多言語でのカスタマーサポート、海外配送の運用代行を行うことで、特別なオペレーションを追加することなくLazadaユーザー向けの販売を開始することができます。また、信金中央金庫との業務連携により、「Shopee」に全国の信用金庫の取引先である企業の商品が出品されるオンラインストアを開設し、全国の中小企業の海外向け販売のサポートを開始しました。新型コロナウイルスの影響を大きく受けている「トラベル事業」においては、マーケティング費用の投下を最低限に抑え、収束後のインバウンドの回復を見込み、事業開発に取り組んでいます。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は22,245千円（前年同期比99.2%減）、営業損失は245,665千円（前年同期は営業利益2,445,973千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態の分析

(i) 資産

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比べ1,218,331千円減少し、21,811,357千円となりました。

内訳といたしましては、流動資産合計が18,472,061千円となり、前連結会計年度末と比べ1,386,251千円の減少となりました。その主な要因は、現金及び預金548,017千円、受取手形及び売掛金579,778千円及び未収入金468,418千円の減少であります。

また、固定資産合計は、3,339,295千円となり、前連結会計年度末と比べ167,920千円の増加となりました。その主な要因は、投資有価証券66,226千円及び繰延税金資産78,150千円の増加であります。

(ii) 負債

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末と比べ1,184,739千円減少し、10,634,698千円となりました。

内訳といたしましては、流動負債合計が8,855,932千円となり、前連結会計年度末と比べ827,922千円の減少となりました。その主な要因は、預り金1,138,453千円の減少及び未払法人税等294,977千円の増加であります。

また、固定負債合計は、1,778,765千円となり、前連結会計年度末と比べ356,816千円の減少となりました。その主な要因は、長期借入金150,453千円及び繰延税金負債212,544千円の減少であります。

(iii) 純資産

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末と比べ33,591千円減少し、11,176,659千円となりました。その主な要因は、利益剰余金129,497千円の減少及び、自己株式が121,632千円減少したことによる増加であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の連結業績予想につきましては、インキュベーション事業の投資育成事業において、投資先の事業進捗に合わせて、適時適切なタイミングで投資回収を行うこととしており、その発生時期及び金額を見積もり、発表することが合理的ではないと判断していること、また新規事業への投資の時期や金額の規模について、機動的に判断していく予定であることから、開示を見合わせておりますが、Eコマース事業の2021年9月期の業績見通しにつきましては下表のとおり2020年11月5日に決算短信で公表いたしました内容に変更ありません。

	グローバルコマース	バリューサイクル	エンターテインメント	Eコマース事業計
流通総額	342億円	130億円	80億円	552億円
前年比	115%	107%	97%	110%
売上高	76億円	130億円	40億円	246億円
前年比	128%	107%	100%	111%
営業利益	21.5億円	1.8億円	0.0億円	23.3億円
前年比	128%	174%	—	137%
(参考) 前年実績				
流通総額	297億円	121億円	82億円	501億円
売上高	59億円	121億円	40億円	221億円
営業利益	16.8億円	1.0億円	▲0.9億円	16.9億円

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,976,285	9,428,268
受取手形及び売掛金	1,110,244	530,466
営業投資有価証券	3,966,499	4,023,752
商品	1,553,412	1,630,947
未収入金	2,090,188	1,621,770
その他	1,167,282	1,242,456
貸倒引当金	△5,600	△5,600
流動資産合計	19,858,313	18,472,061
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	581,194	608,087
減価償却累計額	△297,855	△309,879
建物及び構築物(純額)	283,339	298,208
車両運搬具	9,549	9,494
減価償却累計額	△8,716	△8,768
車両運搬具(純額)	833	725
工具、器具及び備品	205,497	190,938
減価償却累計額	△147,248	△132,525
工具、器具及び備品(純額)	58,249	58,413
有形固定資産合計	342,421	357,347
無形固定資産		
のれん	374,785	348,373
その他	167,754	193,617
無形固定資産合計	542,539	541,990
投資その他の資産		
投資有価証券	1,776,419	1,842,646
繰延税金資産	68,772	146,923
その他	441,221	450,387
投資その他の資産合計	2,286,413	2,439,957
固定資産合計	3,171,375	3,339,295
資産合計	23,029,688	21,811,357

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	348,387	247,166
短期借入金	1,600,000	1,600,000
1年内返済予定の長期借入金	300,000	300,000
未払金	3,373,049	3,539,964
預り金	2,373,894	1,235,441
未払法人税等	783,695	1,078,673
その他	904,829	854,687
流動負債合計	9,683,855	8,855,932
固定負債		
長期借入金	1,721,617	1,571,164
繰延税金負債	212,544	—
資産除去債務	201,420	207,601
固定負債合計	2,135,582	1,778,765
負債合計	11,819,437	10,634,698
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,775,840	2,775,840
資本剰余金	3,903,953	3,903,909
利益剰余金	5,462,007	5,332,510
自己株式	△778,700	△657,068
株主資本合計	11,363,100	11,355,191
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△286,179	△261,377
為替換算調整勘定	53,939	△7,988
その他の包括利益累計額合計	△232,239	△269,366
新株予約権	79,389	90,833
純資産合計	11,210,251	11,176,659
負債純資産合計	23,029,688	21,811,357

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2020年12月31日)
売上高	8,129,205	6,275,990
売上原価	3,053,395	3,112,555
売上総利益	5,075,810	3,163,435
販売費及び一般管理費	2,709,197	2,818,049
営業利益	2,366,612	345,386
営業外収益		
受取利息	10	19
持分法による投資利益	390	—
助成金収入	2,706	2,767
投資事業組合運用益	68,632	1,999
その他	16,359	12,178
営業外収益合計	88,100	16,965
営業外費用		
支払利息	2,512	3,537
持分法による投資損失	—	23,912
為替差損	3,450	22,722
支払手数料	80,415	24
その他	342	203
営業外費用合計	86,721	50,400
経常利益	2,367,991	311,951
特別利益		
新株予約権戻入益	5,200	203
特別利益合計	5,200	203
税金等調整前四半期純利益	2,373,191	312,154
法人税、住民税及び事業税	600,563	506,098
法人税等調整額	197,879	△316,813
法人税等合計	798,443	189,285
四半期純利益	1,574,748	122,869
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△19,845	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,594,594	122,869

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2019年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2020年12月31日)
四半期純利益	1,574,748	122,869
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	44,145	24,629
為替換算調整勘定	21,499	△59,939
持分法適用会社に対する持分相当額	609	△1,817
その他の包括利益合計	66,253	△37,126
四半期包括利益	1,641,002	85,742
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,660,848	85,742
非支配株主に係る四半期包括利益	△19,845	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Eコマース事業				インキュ ベーション 事業	合計		
	グローバ ルコマー ス	バリュー サイクル	エンター テインメ ント	小計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,223,387	3,148,677	864,422	5,236,486	2,892,718	8,129,205	—	8,129,205
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	7,775	—	82	7,857	21,213	29,071	△29,071	—
計	1,231,162	3,148,677	864,504	5,244,344	2,913,932	8,158,276	△29,071	8,129,205
セグメント利益 又は損失(△)	282,770	△27,607	△38,367	216,795	2,445,973	2,662,768	△296,155	2,366,612

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△296,155千円には、セグメント間取引の消去6,158千円、各報告セグメントに配分していない全社収益100,796千円及び全社費用△403,110千円が含まれております。全社収益は、主にグループ会社からの受取手数料であります。全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Eコマース事業				インキュ ベーション 事業	合計		
	グローバ ルコマー ス	バリュー サイクル	エンター テインメ ント	小計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,766,466	2,840,016	1,653,284	6,259,767	16,223	6,275,990	—	6,275,990
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,506	—	296	2,803	6,022	8,825	△8,825	—
計	1,768,973	2,840,016	1,653,580	6,262,570	22,245	6,284,816	△8,825	6,275,990
セグメント利益 又は損失(△)	579,290	51,818	140,312	771,422	△245,665	525,757	△180,370	345,386

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△180,370千円には、セグメント間取引の消去△386千円、各報告セグメントに配分していない全社収益127,817千円及び全社費用△307,801千円が含まれております。全社収益は、主にグループ会社からの受取手数料であります。全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、従来「クロスボーダー部門」としていた名称を「グローバルコマース」に、また「リテール・ライセンス部門」としていた名称を「エンターテインメント」に変更しております。当該変更は名称の変更であり、それぞれのセグメントに含まれる事業の構成については変更ありません。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の名称で記載しております。